

令和5年12月14日

厚生労働大臣 武見 敬三 殿

公益社団法人 日本産婦人科医会
会長 石渡 勇
(公印省略)

公益社団法人 日本産科婦人科学会
理事長 加藤 聖子
(公印省略)

公益社団法人 日本医師会
会長 松本 吉郎
(公印省略)

子宮頸がん排除への施策に関する要望書
(HPVワクチン接種の更なる推進に関する要望)

平素よりがん対策事業の推進に関しては格別のご理解とご配慮を賜り感謝申しあげます。

さて、子宮頸がんはHPVワクチンとHPV検査を導入した精度の高い検診により、今や“予防できるがん” “排除 (elimination) できるがん (WHO)” と位置づけられています。しかし、日本においては欧米とは異なり子宮頸がんの患者数は増加し続けています。その原因として、HPVワクチンの積極的接種勧奨が再開されたものの接種が低迷していること、また、子宮頸がん検診受診率が低いことに加え、HPV検査が未普及であるなど実効性のある検診体制の確立が遅延していることがあげられます。

このようなわが国の現状に鑑み、日本産婦人科医会、日本産科婦人科学会、日本医師会は「HPVワクチン接種の更なる推進」への方策に関し、下記要望いたします。

記

HPVワクチン接種の更なる推進に関する要望

1) キャッチアップ接種の更なる推進

HPVワクチンの接種を逃した方のための接種（キャッチアップ接種）については、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分化学会副反応検討部会の資料によると、2022年度の接種者数は第1回 304,737人/第3回 157,068と報告されています。現状の接種数から勘案すると対象者全体への接種完了は見込めない状況にあります。

- ✓ より多くの対象者への接種推進に向けて、更なる積極的な情報発信（リーフレット・接種券の繰り返し送付の徹底、SNS）等、キャッチアップ接種周知のための施策の充実をお願いいたしますとともに、今後の接種状況を踏まえ、必要に応じてキャッチアップ実施期間の延長をお願いいたします。
- ✓ 就学・就職等により住民票所在地外に居住されている方への手続き上の配慮をお願いいたします。

2) 男性への接種の推進

日本においても2020年12月に4価HPVワクチンの男性接種が承認され、2022年8月4日の厚生科学審議会予防接種・ワクチン分化学会予防接種基本方針部会ワクチン評価に関する小委員会において、定期接種化を検討していくことが提案されましたが、2023年9月時点でも検討は開始されていません。

一方、米国、オーストラリアをはじめ約50の国と地域において、すでに男性も定期接種としています。本ワクチンは子宮頸がんだけでなく、中咽頭がん、肛門がん、陰茎がんにも効果が確認されており男性にも有用です。また男性も接種することで集団免疫効果により女性の子宮頸がん等の予防効果の上昇にもつながります。

- ✓ 本ワクチンの男性への定期接種化の速やかな検討と、より大きな予防効果が期待できる9価ワクチンの男性への適応追加の承認申請があった場合の迅速な審査を要望します。